

1 新しい発展サイクルの始まり

新たな発展段階

- ・過去の発展過程
- ・閉塞感の中身
- ・程よい成長の実現

しなやかに強い国土の形成

多様な主体の参加

大都市圏の国際競争力の強化

広域都市圏の連携による自立

2 交流・連携が生み出すダイナミズム

国土計画の基本理念

- ・経済で価値を生み出す源泉
- ・交流・連携の重点の変遷

全国総合開発計画の経緯

- ・全総（昭和37年度）→「拠点開発構想」
- ・新全総（44）→「大規模プロジェクト構想」
- ・3全総（52）→「定住圏構想」
- ・4全総（62）→「多極分散型国土の形成」

→多様な主体の参加

- ・ 5全総（平成10年度）→「一極一軸から多軸型国土へ」
→地域住民、ボランティア団体、NPO、民間企業等
の多様な主体による地域づくり

3 国土形成計画（第6次国土計画）のメッセージと新たな公

(1) 5つの基本戦略

5つの基本戦略

- ・「東アジアとの円滑な交流・連携」「持続可能な地域の形成」「災害に強いしなやかな国土の形成」「美しい国土の管理と継承」「これらを基盤として支える「新たな公」を基軸とする地域づくり」
- ・ハード（社会資本整備）とソフト（新たな公）の二本柱
交流・連携と担い手
- ・地域内の交流・連携、国内の広域連携、海外との連携
- ・担い手としての新たな公

(2) 新たな公の4つの役割

行政機能の代替

- ・行政が提供しているサービスを自らの意思で住民に提供
- ・道路・公園・河川の維持管理、災害対応、旧役場機能の代替等

行政の補完

- ・行政が提供すべきとまでは言えないが、公共的価値の高いサービスの提供

- ・ 古民家の再生、地域文化の保存、地域での子供の教育・介護等

民間領域での公共性の発揮

- ・ ビジネス的な色彩が強い事業について、それに公共的な価値を賦与して住民に提供

- ・ 特産品の開発・販売、観光資源の発掘・事業化、2 地域居住等
中間支援機能

- ・ 官と民、あるいは民と民の触媒機能

- ・ 民設民営、公設公営、公設民営

- ・ 重要性を増す中間支援機能

(3) 新たな公（新しい公共）の育成

組織が脆弱（資金、人材）

大都市圏と地方圏の意識の断絶

- ・ 谷筋の文化がつくる日本の文化

4 発展のエンジンの再始動

(1) 大都市圏の競争力の強化

- ・ 東京の競争力の低下
- ・ 地方圏と大都市圏の関係の見直し

(2) 広域都市圏内の連携強化

広域で考える、各都市の役割の検証、交流・連携の方法、担い手

- ・ 太平洋側と日本海側の広域連携

街づくりの4つの視点

ビジネス活動が効率的に行える街

住みよい街

国際的に活用される街

歴史や文化が感じられ、環境にやさしい街

(3) 広域地方圏の連携強化

- ・ GNI、歴史街道計画、三遠南信地域、九州戦略会議等

(4) 首都圏・各広域都市圏におけるバックアップ機能の整備

- ・ 常時の競争、非常時の協調
- ・ 「防災国土づくり委員会」における議論

(5) 都市圏での新しい公共の活躍

- ・ ビジネスとしての新しい公共
- ・ 丸の内、柏の葉キャンパス、廃校の活用等

5 荒廃する日本の恐れ

- ・ 合理的だった社会資本の形成過程
- ・ 社会資本の維持更新への危惧
- ・ 米国の経験
- ・ 有効な利活用、効率的整備、長寿命化